

(1) 本県における生産性向上の取組方針（案）について

(2) 取組に係るK P I（案）について

(3) ひなた介護D X支援センターの運営方針について

<事務局より説明> 資料1・2

委 員： 取組に係るK P I（案）のうち、「介護テクノロジー導入率」は、どのような算定方法になるのか。

事務局： 介護保険施設において、介護ロボット又はI C T機器をいずれか1つでも導入している事業所の割合を算定している。

委 員： 上記の質問をした趣旨として、機器を1つでも導入していると導入済み事業所とカウントされるが、事業所によっては、はじめに機器を少しだけ導入し、効果を確認してから大がかりに導入するといったパターンもある。その場合、介護テクノロジー導入支援補助金へ応募しても相当数が不採択となってしまう、結果として生産性向上や負担軽減につながらないのではないかと考えている。

上記をK P Iとするならば、例えばサービスごとに適した機器を指標として示す方がよいのではないか。

事務局： 介護テクノロジー導入支援補助金については、昨年度までは介護ロボットとI C T機器がそれぞれ補助金のメニューとなっていたが、今年度から介護テクノロジー導入支援補助金へ一本化され、補助金の募集に対して予算を上回る応募が事業所からあったため、過去の補助実績がない事業所から優先的に採択した結果、残念ながら不採択とした事業所もあったところ。

指標へのご意見については、本事業におけるK P Iとしてだけでなく、次期の高齢者保健福祉計画等の検討が始まる中で、どのような指標が適切であるかご意見も踏まえながら検討してまいりたい。

委 員： 小規模な事業所では機器の導入のハードルは高く、導入初年度は補助金を活用できるが、その後の維持更新にかかる費用の負担が重く、導入を断念したところもあるため、I C T化以外の部分でも小規模事業所向けに生産性向上に関する研修会があると助かるのではないか。

委員： ひなた介護DX支援センターにおいて、生活相談員向けの研修会へ有識者を派遣している事例もあるので、サービスや規模に応じた研修会等も検討してまいりたい。

委員： 取組に係るKPI（案）のうち、「伴走支援事業所における成果」について、例えば介護テクノロジーを導入した後のいろいろな課題が見えてくるとひなた介護DX支援センターでの取組にも反映できるのではないかと思うので、課題の抽出をお願いしたい。

事務局： 伴走支援事業所での取組内容・結果については、どのような課題があったか含め検証してまいりたい。

委員： 伴走支援事業所について、例えば私たち委員が実際に施設を見学・意見交換をできるとよいのではないかと思う。

事務局： 実際に事業所を訪問する方法もあると思うし、例えば来年2月に開催の事例交流会において、支援事業所による取組内容の発表を予定しているため、本会議との連携についても何らかの形で実現できないか検討してまいりたい。